



TITLE:

# 京都大学附属図書館創立100周年記念式典

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学附属図書館創立100周年記念式典. 静脩 2000, 36(3): 10-10

ISSUE DATE:

2000-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37554>

RIGHT:

要な役割を担って頂いており、日ごろより感謝しているところです。

いま国大図協はその存在意義を賭けまして大きな問題に取り組まねばなりません。すなわちインターネットなどの情報技術の飛躍的な発展は、図書館に大きな革命を引き起こしつつあります。20世紀の書物図書館が発展して、21世紀は電子図書館の時代になります。その課程で各大学図書館の資料は世界的な規模で公開・共有されることになることが求められます。一方増え続ける資料を共同で保存することが求められます。デジタル資料はwwwで共有できますし、インターネットを通して、図書の相互貸借、相互複写が簡単なプロセスで可能になります。そのために国大図協は各会員館の図書業務の言わば標準プロトコールに合意する困難な仕事に取り組まなければなりません。このプロトコールは、国立大学が現在求められています10年間で25パーセントの定員削減と30パーセントのランニングコストの削減を前提として機能することが絶対必要です。この一環として国大図協は、まだデータベース化されていない図書目録情報の遡及入力 of 早期の完成と、全国的な視野に立った全国共同利用のための保存図書館の実現に互いに協力することを決議しました。図書館の電子化に一步先んじている京都大学附属図書館

のリーダーシップに期待すること大であります。

国大図協として取り組まないといけないもう一つの問題は、少子化による大学の学習環境の変化に図書館をどう備えるかです。現在大学進学率は18歳人口の48パーセントであり、2010年ごろには90パーセントになってもおかしくないと言われる事態を想定して、大学図書館は相当に性根をいれて学習図書館の機能の強化を図らねばなりません。必然的に学習目的が多様化し、かつ能力も均質でない学生達に自学自習をしむける良い環境が必要であります。その基本は、過去も、現在も、未来も彼らが、じっくり思索にふけることが本質的に大事です。そのために、情報アクセス手段は多様になりますが、先人の思索の成果としての図書は不可欠です。各大学図書館は、学生が万卷の古典籍に加え、自由に読める新しい図書の増強を目指して様々な努力を試みているところですが、京都大学附属図書館がそのモデルとなつてほしいと願っているところです。

京都大学が益々素晴らしい成果を挙げられ、京都大学附属図書館がそこで大きな役割を果たされんことを願って、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は大変おめでとうございます。

(おちあい たくしろう)

## 京都大学附属図書館創立100周年記念式典

11月29日(月)、京都大学附属図書館開館100周年記念式典が、総長、部局長はじめ学内外の関係者200名の出席を得て、附属図書館3階AVホール(第1会場)と同4階大会議室(第2会場)において行われた。

この式典は午前11時に始まり、菊池光造附属図書館長の式辞に続いて、長尾真総長の挨拶、太田慎一文部省学術国際局学術情報課長、落合卓四郎国立大学図書館協議会会長(東京大学附属図書館長)の祝辞、工藤智規文部省学術国際

局長ほかの祝電披露が行われ、正午に終了した。

引き続き、午後12時10分から附属図書館4階調査室、同大会議室前ロビーにおいてレセプションが催された。

なお、午後1時30分からAVホール、大会議室に満席の聴衆を得て、100周年記念展示会講演「弁慶像の展開：御伽草子『弁慶物語』— 平家物語から室町物語へ —」が池田敬子京都府立大学教授を迎えて行われた。